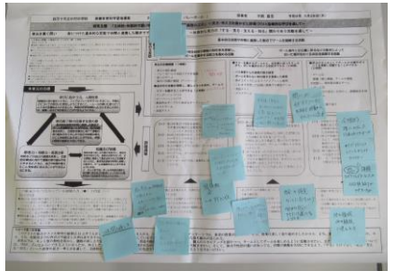
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習過程の工夫
～見方・考え方を働かせた授業づくりを通して～

四万十市立中村中学校
校内研修だより
ＮＯ．１
２０２２.５.６

今年度は、「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト『実践研究協働校事業』の指定の２年目を迎えています。
今回の保健体育科教材研究会では、前回の小学校で実施された教材研究会での学びを踏まえ、「why？何を目指しているか」「what？何を教えるか」「how？どのように教えるか」の３つをキーワードに、体育科の教材研究を通してどの教科にも繋がる資質・能力の育成のポイントについてご指導いただきました。

「実践研究協働校事業『教材研究会Ⅰ』」

【研究協議】
〇体育科としての見方・考え方が鍛えられる単元構想となっているか。
〇本単元の流れが課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程として適切かどうか。



- ラリーを続けるためにはどんな力を付けたらいいのか。自分に合った練習メニューを考えることが必要ではないか。アンダーパスやタスクゲームの動きをスムーズにするための方法を考えさせる必要がある。
- バレーボールのラリーを通してどのような力が付けられれば良いかを検討する。
- 合理的に、理にかなった動きや解決をどう見とればよいか。ただアドバイスをしているからOKではない。なぜできるようになったか、の振り返りが大切。
- 中学１年生で身に付けているであろう資質・能力とのつながりと中学２年生でねらう重点との差についても検討する必要がある。
- 実際にゲームをしながら個の課題を発見できるようにしていくとよいのではないか。
- 試しのゲームからどんなゲームが理想なのか、目指す姿やゴールを知っておくことが大切になる。

高知県教育課程推進専門官　齊藤一弥先生の講話より

⑴why? 何を目指しているか？　もともと…学校教育とは何を目指してきたか→能力ベイス

人間性の発展を企図・・・バレーボールで何を目指すのか？チームにどんな課題があるのか判断、チーム力、チームプレーを通じていかなる能力を育成するのか。
※体育全体としてどういう子供を育てたいのかを考える。これはすべての教科に通じる。育成のポイントがズレない。

⑵what?何を教えるか？　教材研究の守備範囲の再考

- すべての教科において問題解決のプロセスを大切にする・・その教科らしいプロセスの描き方がある。
- 時代とともに合理的練習→合理的実践→合理的解決に変化していっているが、自らの学習を振り返り、仲間と共に課題解決し、次につなげることが大事。チームとしてどうするか？どんどんリアルタイムで分析する。そういう学習過程を描く。
- 体育科の学習過程を回す…可視化させて比較する。良い動きとの比較、自分たちがどこまで至っていないのかを視える化→考えていかなければならないことの焦点化

⑶how？いかに？　明示的指導の具体を問う…能力の成長実感をより確かなものへ

- 能力の価値（よさ、働き、役割）をつかませるための指導
  →対話（視点、追究、姿勢）の焦点化と可視化（具体の実感）を比較・関連付けする。それらを言語化し、成長過程の実感を確認させることが大事。
- 入口（課題）から出口（解決）までの解決過程を通して合理的（科学的）か？を検討。主語を生徒にして個別最適（グループ別最適）を考えることが大切。

体育科より

自分たちが考えた単元計画は、練習や実践が中心の単元計画になっていたが、もっと「課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程」を描くことを中心に検討し直していきたい。合理的な解決という点に重点を置き、学習過程を描いていきたいと思う。数学科には負けません！